

(第3種郵便物認可)

+



「白い小箱」 災害時安心

災害時に必要な地域へすぐに配れるようにと、非常食を詰めた「白い小箱」を各家庭に置いてもらう取り組みを、四日市市昌栄町のNPO法人「シルバーフードサービス」が始める。第一弾として来月一日午前十時から、同市の中央緑地公園で千箱を無料で配る。

(神谷円香)

四日市のNPO 非常食詰め合わせ

三年前から企画を温めて「食料確保が大事」と考えていた古谷賢治理事長(四三)は「東日本大震災でも、一週間たてば全国から支援物資が被災地へ届いたが、初めの数日は地域内でのしぐ必要があった。」

箱の中身は二リットルの水や三食分のアルファ米、ブドウ糖で、賞味期限は五年。三年間保管して使用し

配布する非常食などを紹介する古谷さん＝四日市市昌栄町で

あす1000箱 無料配布

なかった場合は回収し、発展途上国へ贈る計画だ。箱詰めなどの作業は福祉施設の仕事にする。今回の千箱は鈴鹿市の施設で利用者が行った。

費用は企業からの協賛で賄う。協賛企業には、以前から話は持ち掛けていたが、この半年で一気に話が進んだという。非常時にどこにどれだけ必要ななどの情報を共有するため、行政との協定締結も予定している。

すぐ持ち出して避難できるように「小箱はげた箱の上に置いて」と呼び掛ける。一日は午前九時半から整理券を配り、趣旨に同意した人に配る。